



小児肺炎球菌感染症って知っていますか？

小児肺炎球菌感染症とは？

【どんな病気？】

肺炎球菌による感染症で、小さな子供がかかった場合、命にかかわる重大な病気です。特に2歳以下の子供は肺炎球菌に対する免疫力がほとんど無く小児の肺炎球菌感染症は重症化する事が多くなります。

脳を包む膜に肺炎球菌がつく細菌性髄膜炎（さいきんせいずいまくえん）や、菌血症（きんけつしょう）、敗血症（はいけつしょう）、重い肺炎や細菌性中耳炎などの病気を起こします。



【症状や経路は？】

肺炎球菌は鼻、口から体に入り発症します。

早期の症状は発熱と不機嫌くらいで血液検査をしてもかぜと区別が出来ない事も多く早期診断が難しく、その後、ぐったりする、けいれん、意識が無いなどの症状が出てきます。診断がついても、抗菌薬が効かないなどの耐性菌が多く、治療が難しいケースが多いです。

小児肺炎球菌ワクチン接種のご案内！

【予防は？】

子供の肺炎球菌感染症は、**小児用肺炎球菌ワクチン**で予防できます。定期接種する事で重い感染症の発症率が下がります。

小さな子供は肺炎球菌に対する抵抗力はもっていませんが**小児用肺炎球菌ワクチン**を接種すると抵抗力ができるようになるので、一番この病気にかかりやすい年齢の間、肺炎球菌からお子様を守ってあげる事ができます。



お知らせ（横浜市民の皆様へ）

横浜市では横浜市民のうち、小児肺炎球菌ワクチンを**無料（公費負担）**で接種できます。（保護者や世帯等の所得制限はありません。）

平成27年度の接種形式

小児用肺炎球菌	細菌性髄膜炎 菌血症 肺炎など	初回3回	初回月齢生後2～7ヶ月未満	初回:27日以上の間隔をあけて3回接種 (1歳未満までに初回終了)
		追加1回		追加:60日以上あける (生後12～15ヶ月の間で接種)
		初回2回	初回月齢生後 7ヶ月～13ヶ月未満	初回:27日以上の間隔をあけて2回接種
		追加1回		追加:60日以上あける (1歳以降に接種)
		2回	1～2歳未満	1回目から60日以上あけて2回目接種
		1回	2～5歳未満	

ご予約は TEL 045-681-5101